

# 米沢興讓館同窓会会報

## 第43号

発行／平成26年8月1日  
米沢興讓館同窓会  
会報 編集委員会  
当会報の題字は、第  
19号から奥山徹石氏  
(昭和28年卒)の揮毫  
によるものです。



あいさつ



平成二十六年 度同窓会総会・懇親会  
実行委員長 菅野紀生  
(昭和五十四年卒)

九月二十日(土)、「伝統を胸に、興讓の心 未来へ」をテーマに開催されます創立百二十八年 平成二十六年 度米沢興讓館同窓会総会・懇親会は昭和五十四年、五十八年、六十二年、平成六年、十一年、十六年卒が実行委員を務めさせていただきます。昨年度から、卒業後十年の若い世代にも実行委員会に参画していただき、これまで以上に幅広い年代のつながりを生み出しているところです。

今年のテーマに込めた思いは、素晴らしい興讓の精神を若い世代へ、さらには未来の同窓生に受け継いでいく大きな役割を同窓会が担い、すべての同窓生が力を合わせることで、元氣ある興讓館が永続していくことを願う心です。平成十六年卒の皆さんから提案いただいたテーマですが、同窓会や先輩、そして後輩を大切にしたいという若い年代の方々の思いが伝わってきました。

時代や環境が違っていても、校歌を、凱歌を、自治会歌を連綿と謳い継いで来た同窓の皆様と一堂に会し、学び舎で過ごしたそれぞれの多感な青春時代に戻って、楽しいひと時を過ごしていただけたら何よりです。多くの皆様方のおいでを心よりお待ちしております。



## 第12回全国藩校サミットに参加して

同窓会長 大友 恒 則



ミットへの参加者は、全国に残る藩校関係者で、会場は毎年持ち回り、全国各地で開催しています。

このサミットの記念すべき第一回（平成十四年）は湯島聖堂（東京都）で開催されました。

まるで地球が異常をきたしたかのような気候変動の続くこの頃ですが、会員の皆様にはますますご壮健で活躍のことと存じます。

今年、皆様に標題について記させてもらいました。

江戸時代には二百六十を越す藩に、それぞれの伝統や精神をもつ藩校が設立されたと言われています。かつてそれぞれの藩校が掲げた精神を現代の視点で見直し、生かすべきは生かして新しい時代の文化を創造することを目指すことを目的に組織をみたのが「全国藩校サミット」なのです。従って、このサ

第二回は、NHK大河ドラマ『八重の桜』にも登場した会津「日新館」が会場でした。そして今年、第十二回は「忍藩の地 行田市」（藩校名は進脩館）で開催されました。この大会に、我が上杉家十七代当主、宇宙科学研究部門で世界的に著名、上杉邦憲様はじめ四十九藩の当主と四百名を越す関係者が参加された。そしてこの会議で「行田宣言」が採択されたのでその要旨を記してみます。

## ◇全国藩校サミット

## 「行田宣言」

・藩校の教育は「人の道」と「心の教育」を軸として日本の指導者である人々を育み、精神を鍛え、躰け、作法や人としての行いに、高い評価を得た。各藩では、国と領民を護るための藩校教育に尽力し、確かな人材を輩出すると共に、各地の文化や街づくりに貢献してきた。

・藩校サミットは、我が国における精神文化の衰微、教育の荒廃などの現状を打開し、地域の精神文化の復興を図り、日本人としての美質を取戻す。ここに、藩校教育を再評価し、その教

育と精神の伝統を現代に活かすことを目的に開催してきている。

本日我々は彩の国、行田に集い「藩校教育を今に生かす」をテーマにこの集いをもった。その結果、各地の藩校の多くの関係者が、不断の努力と奉仕・報恩の思いで伝承されてきた藩校教育の伝統と精神に基づく活動を学び、認識を深めることが出来た。

私達は、藩校が果たしてきた役割・精神と伝統を見つめなおし、手を携えながら、「一燈照隅」の想いで出来ることを着実にやっていくこと、日本人の誇りを取り戻すこと、心豊かに明

る我が国と各地域の街づくりに貢献することおよび次世代と未来に対して責任を負うことをここに宣言します。

ちょっと引用が長くなりましたが、皆様はこの宣言文にどのような感想を持たれたでしょうか。

私もこの会に参加させて頂き、時をり、愛する興譲館の教育理念に心を馳せてみるのも大事かなと思ったことです。

いつも同窓会にお心を戴いております皆様にご心より感謝申し上げます。

## 米沢興譲館同窓会

平成26年度  
総会・大懇親会  
ごあんない

- 一、日時 平成二十六年九月二十日（土曜日）  
一、会場 グランドホクヨウ（市内金池二丁目）  
一、日程 ①総会 午後四時半～  
②大懇親会 午後五時半～

米沢興譲館同窓会会長 大友 恒 則  
平成二十六年同窓会・懇親会実行委員長

菅野 紀 生  
（昭和五十四年卒）



## 「挑戦する心」の育成

校長 大貫 英一



同窓生の皆様には、常日頃から物心両面にわたり絶大なご支援とご協力を賜りまして心から感謝を申し上げます。

お蔭をもちまして、各種活動において、生徒たちはとても明るく伸びやかに日々をおくり、様々な場面で興讓館生らしい素晴らしい頑張りを見せてくれています。また、今春三月卒業の諸君も、それぞれの進路目標を高く持ち、学年一丸となって粘り強く努力を重ね、なかなかみごとな実績をあげました。これもまた、皆様からのお支えが

あつたからこそであります。

重ねて御礼を申し上げます。

さて、平成二十四年度に文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業の研究指定をいただいてより、今年で三年目を迎えました。全ての学年が対象となる形で、中間総括を行う年度であります。

特に、三年理数科生は、第一期生として、一年時における学年全体での取り組みに始まり、昨年度には多岐にわたる新しい活動を繰り広げました。最も特徴的なものとして、三月上旬に実施した台湾への海外研修旅行があります。三泊四日の行程でしたが、国立台湾師範大学付属高級中学との交流をはじめ、大学や研究施設等での各種研修など、

大変密度の濃い、有意義な経験をしてまいりました。今後に向け、各人の学習への反映や学校全体の「学び」に対する意欲喚起に繋がることを期待しているところです。

SSH事業を含め、先進性の高い取り組みというのは、人や組織を活性化いたします。関係する者たちの勇氣と覚悟が集団に元氣を生むからです。「進取」の精神と言い換えてもいいですが、その挑戦する姿勢こそが、柔軟で可能性に満ちた本校生に最も大切な構えであろうと思います。そして生徒たちは、成功や失敗を繰り返す中で、それぞれ自分の特性や能力、さらには自らの進むべき道や目標を自覚していくことになるでしょう。その過程とは、徹底的に自らの頭と心で考え尽くすトレーニングの積み重ねであり、他と協働しつつ課題解決に向かう総合的な人間力の基礎作りとも

言えると思います。

「挑戦する心」は、本来的にいえば、藩校『興讓館』開設以来の伝統であり、米沢という地に受け継がれた「学び」の構えであつたはずであります。現在を生きる生徒たちも、少しずつでもそのエネルギーを蓄えてほしいと念願しております。

本校は、「興讓」の精神を基とし、「文」と「武」にわたる切磋琢磨を通して、「地力」や「耐性」を培うことを教育の根幹としています。先輩諸兄が各時代を

通して営々として築かれたその伝統を、継承、そして発展させるべく、生徒と教職員が一体となり、さらに心を合わせて精進を重ねてまいりたいと考えております。同窓生の皆様には、より一層のご指導とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。最後になりますが、本校同窓会のさらなるご隆盛と、会員の皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

## 米沢興讓館高等学校

## 創立記念式典・記念講演

一、日時 平成二十六年 九月十九日（金）

一、会場 興讓館高校 記念講堂

一、日程 ①記念式典

②記念講演

講師 齋藤峰彰氏

（昭和四十三年卒（株）ゼンファクトリー）



## 同窓会関西支部三十周年

関西支部長 吉田 真

僕が支部長となった昨年は、関西支部が設立されてから三十年ということで、五月には第三十回記念総会が開催されました。参加者がやや少なかつたものの、近來になく盛り上がったいい会となりました。

関西の会員は、高校卒業後の米沢については殆ど知らず、さまざま疑問を持っています。「米沢の人口は昔は十五万人くらいだったと思うが、今は九万人くらい？なぜこんなに減つたのか？人口減少に伴って、米沢では何がどのようになつたのか？」「昔の興讓館は殆ど男子ばかりだったが今は女子の方が多いとか？いつから？どのような経過でそのようになつたのか？進学先や進学率・就職率などは変化したのか？」「街を歩いていても、若者の姿が見えない。興讓館が、そもそもどうして郊外に移転することになつたのか？」

そこで記念大会は、いつもは短

時間のご挨拶をいただく同窓会長と校長に、ここ五十年ほどの米沢と興讓館高校の変わりようをお話いただきました。うすうす感じていたものの、米沢の変貌についての同窓会長の話は私にとって衝撃的なものでした。興讓館高校も、私たちが在籍していた時代とは良い意味でも悪い意味でも大きく変化していることを知りました。

お二人の話を聞いて僕たちは、興讓館OBとして、米沢出身者として、興讓館と米沢に何かしてあげたいという気になりました。

懇親会は異常に(?)盛り上がり、一次会で飽き足らなかつた多くの方が二次会まで参加されました。この傾向は今年にも受け継がれ、「二次会まで含めて一次会である」という新たな伝統が作られつつあります(笑)。

## 興讓館県庁・教育委員会職員同窓会について

県庁・教育委員会 佐原 伸 児

今年度、当同窓会の支部長を務めることになりました昭和四十八年卒業の佐原です。どうぞよろしくお願いします。

当会は米沢興讓館高等学校(前身校を含む)の出身者で山形県庁及び教育委員会に所属する職員で村山地区に勤務する者で構成し、昭和四十六年に発足しました。いわゆる職域支部ということになります。ほぼ百%に近い組織率で現在百十二名の会員です。そのほか歴代の会長と県議会議員の方々にも顧問(十七名)としてお願いしています。

会員相互の親睦を目的として、年間に三つの事業

- ①六月の総会・懇親会
- ②九月の芋煮会
- ③二月の立春懇談会

を恒例として実施しています。この中で最大かつ最重要の事業は六月の総会・懇親会です。今年も六月十日に開催しました。同窓会

本部から大友会長、大貫校長にも出席いただき、母校の近況などを伺い母校に思いを馳せながら、大いに盛り上がり懇親を深めたところです。余談ですが、大貫校長とは興讓館高校時代の同級生です。誠実な人柄は今も変わらずです。

なお、このたびの総会で、当会として母校のためにと少額ですが協賛金をお渡しすることとなりました。生徒諸君のいくらかでも役に立てればと考えています。

日常の中でいつも興讓館を意識して生活をしている訳ではありませんが、年に一度くらい母校を同じくする者が一堂に会することは、人間関係を構築するうえでも大変貴重な機会であると思います。

結びに、米沢興讓館同窓会の隆盛・発展を念願するとともに、多くの後輩が山形県に入庁され、当会の会員となつていただくことを心から期待して、当会の紹介とさせていただきます。



## 仲間を支えられて



平賀 正和

(平成六年卒)

五年前の春、同窓会の幹部の方からお電話をいただいた。「今年度は平成六年も幹事学年です。総会・懇親会の打ち合わせを行うので、来て下さい」。

同窓会の学年代表を引き受けた覚えのない私は驚いた。私は学年で特に優秀だった訳でも特に目

立っていた訳でもない。地元にいる公務員ということで、長年母校に勤務する〇先生にしてやられたのだと諦めた。

会議に出てみると、先輩方の母校を思う熱い気持ちに圧倒された。これは大変な事を引き受けたと思った。先輩方についていけるだろうか、人は集められるだろうか。不安が大きかったが、覚悟を決め私は少ない人脈を頼り仲間の協力を求めた。

ところが、不安は大きく裏切ら

れた。仲間が仲間を呼び、輪は思った以上に広がっていったのだ。地元で頑張っている友人、企業の経営者になつて同級生、東京をはじめ全国各地で活躍する仲間。懇親会には想像をはるかに超える仲間が来てくれた。

これまで同窓会とはあまり縁のなかった我が学年だが、やはり興譲館で学んだ身。「興譲館」と聞けば母校への思いがあふれたのだろう。思い返せば私も、親しい友人と飲みながら昔話になり、「栄光への道」や「凱歌」を懐かしく思い出し、歌ったこともあった。

今年度、再び幹事学年を務めさせていただく。また仲間の力を借りて、できるだけ多くの同級生と会いたいと思う。そして、微力ながら先輩方のお役に立てればと考えている。

## 「米沢興譲館部活のあゆみ」編纂中です！

「米沢興譲館部活のあゆみ」編集委員会 主幹

鈴木 基

(昭和四十九年卒)

昭和五十七年三月発行の米沢興譲館高校体育後援会会報第十二号に「百周年記念体育史の発刊」について資料準備の御願いが載っている。三十年以上前に興譲館の部活動の記録をまとめようという企画があつたようだが発刊には至っていない。その当時を知る多くの先輩方が鬼籍に入られた現在ではその経緯を知ることができない。

OBが主体となる体育後援会は現在「米沢興譲館部活OB会連合会」として体育部、文化部のOB会をまとめて活動している。

興譲館の部活動の歴史は戦前から始まる。戦争による部活動中断を経て昭和二十五年頃から体制も整い、再び活動してきた。今日まで多くの興譲館生が部活動に励んできた。その歴史をまとめることは、興譲館という校名を背負い部

活動に励んできた我々の生きてきた証を記録することである。

現在、「米沢興譲館部活のあゆみ」の編纂に取り組んでいる。資料が散逸し、まとめるには遅きに失した感があるが多くの方々の協力を得ながら来年秋に発刊する予定である。現在、各部に原稿を依頼している段階であるが昭和二十年代の記録が不足している。当時の資料、特に写真をお持ちの方がいらっしゃればご連絡いただければ幸いである。

なお、出版に要する経費については、OB会連合の積立金、広告料、それに販売代金(定価二千元)等、それ以上はなうつもりなので、是非多くの方にご購入いただきたい。詳しい販売方法等は来年の会報でお知らせする。



## ◎平成24年度 同窓会会計決算書

(会計年度 平成24年 9 月 1 日～平成25年 8 月31日)

## 収入の部

(単位：円)

| 項 目   | 予算額       | 収入額       | 増減 (△)    | 備 考         |
|-------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 繰越金   | 1,006,636 | 1,006,636 | 0         | 前年度繰越金      |
| 入会費   | 1,372,000 | 1,365,000 | △ 7,000   | 7,000円×195名 |
| 年会費   | 2,300,000 | 1,350,000 | △ 950,000 |             |
| 過年度会費 | 0         | 50,000    | 50,000    | 昭和56年卒      |
| 雑収入   | 1,364     | 26,031    | 24,667    | 預金利子・会計名簿売上 |
| 計     | 4,680,000 | 3,797,667 | △ 882,333 |             |

## 決算額

収入済額 3,797,667円 - 支出済額 2,898,471円  
= 残額 899,196円 (次年度へ繰越)

## ○資金の残高

= 米沢信用金庫本店営業部 普通預金 899,196円

## ○財政安定積立金残高

= 同 上 同上 500,117円

## ○前受会費残高

= 同 上 同上 1,710,932円

## 支出の部

(単位：円)

| 項 目   | 予算額       | 支出額       | 残 額       | 備 考                                               |
|-------|-----------|-----------|-----------|---------------------------------------------------|
| 運 営 費 | 1,260,000 | 997,419   | 262,581   |                                                   |
| 会 議 費 | 120,000   | 83,211    | 36,789    | 理事会等                                              |
| 通信連絡費 | 30,000    | 13,605    | 16,395    | 郵便切手                                              |
| 需 用 費 | 180,000   | 50,110    | 129,890   | 印刷機マスター・インク・用紙                                    |
| 人 件 費 | 930,000   | 850,493   | 79,507    | 人件費会計へ繰出し                                         |
| 事 業 費 | 2,611,000 | 1,901,052 | 709,948   |                                                   |
| 一般事業費 | 2,000,000 | 1,372,756 | 627,244   | 各支部総会(旅費・お祝い)・高鍋高校交流事業・総会補助金・HP運営費・会報送料補助・同窓会室本棚等 |
| 卒業記念費 | 250,000   | 213,046   | 36,954    | 記念品代(196名分)                                       |
| 表 彰 費 | 61,000    | 15,250    | 45,750    | 永年勤続者(1名)                                         |
| 会 報 費 | 300,000   | 300,000   | 0         | 会報第42号6,000部                                      |
| 予 備 費 | 809,000   | 0         | 809,000   |                                                   |
| 予 備 費 | 809,000   | 0         | 809,000   |                                                   |
| 計     | 4,680,000 | 2,898,471 | 1,781,529 |                                                   |

## ◎平成25年度 事業計画

①母校振興発展に必要な事業

②会員の親睦に関する事項

③会報の発行

④その他、目的達成に必要な事項

## ◎平成25年度 同窓会会計予算書

(会計年度 平成25年 9 月 1 日～平成26年 8 月31日)

## 収入の部

(単位：円)

| 項 目 | 本年度予算額    | 前年度予算額    | 増 減       | 備 考                                         |
|-----|-----------|-----------|-----------|---------------------------------------------|
| 繰越金 | 899,196   | 1,006,636 | △ 107,440 | 前年度繰越金                                      |
| 入会費 | 1,365,000 | 1,372,000 | △ 7,000   | 7,000円×195名                                 |
| 年会費 | 2,300,000 | 2,300,000 | 0         | 昭40年～平16年まで5万円(40学年)<br>昭30年～39年まで3万円(10学年) |
| 雑収入 | 1,804     | 1,364     | 440       | 預金利子                                        |
| 計   | 4,566,000 | 4,680,000 | △ 114,000 |                                             |

## 前年度からの繰越額

## ○財政安定積立金

= 米沢信用金庫本店営業部 普通預金 500,117円

## ○前受会費

= 同 上 同上 1,710,932円

## 支出の部

(単位：円)

| 項 目   | 本年度予算額    | 前年度予算額    | 増 減       | 備 考                          |
|-------|-----------|-----------|-----------|------------------------------|
| 運 営 費 | 1,160,000 | 1,260,000 | △ 100,000 |                              |
| 会 議 費 | 90,000    | 120,000   | △ 30,000  | 理事会等                         |
| 通信連絡費 | 20,000    | 30,000    | △ 10,000  | 郵便切手                         |
| 需 用 費 | 120,000   | 180,000   | △ 60,000  | 慶弔・事務用品                      |
| 人 件 費 | 930,000   | 930,000   | 0         | 人件費等880,000+50,000(9月手当)     |
| 事 業 費 | 2,595,750 | 2,611,000 | △ 15,250  |                              |
| 一般事業費 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0         | 各支部総会、高鍋高校交流事業、会報送料補助、HP運営費等 |
| 卒業記念費 | 250,000   | 250,000   | 0         | 記念品代(195名分)                  |
| 表 彰 費 | 45,750    | 61,000    | △ 15,250  | 永年勤続者(3名)                    |
| 会 報 費 | 300,000   | 300,000   | 0         | 印刷費                          |
| 予 備 費 | 810,250   | 809,000   | 1,250     |                              |
| 予 備 費 | 810,250   | 809,000   | 1,250     |                              |
| 計     | 4,566,000 | 4,680,000 | △ 114,000 |                              |



## 米沢興讓館同窓会支部役員

### ◎本部

会 長 大友 恒則  
副 会 長 早川 正信 小林 擴二 中條 淳子  
監 事 野口 義人 江部 寛 土田 一成  
常務理事 遠藤 岩根  
副常務理事 磯部 道昭  
常任理事 平山孫兵衛 小嶋彌左衛門 佐野 隆一  
鈴木 基 加藤 英樹 藤倉万里子  
益子 光子 佐藤 詠一 安部 徳朗

### ◇米沢支部

支 部 長 早川 正信  
〒992-0054 山形県米沢市城西3-2-36  
☎0238-22-6780

副支部長 菅野 武巳  
監 事 安達 治雄 安田 道隆  
幹 事 長 相田 修一  
事務局長 栗林 雄二

### ◇東京支部

支 部 長 神野 民夫  
〒187-0025 東京都小平市津田町3-18-304  
☎042-312-3793

副支部長 吉田 仁志  
幹 事 長 宮坂 孝夫

### ◇関西支部

支 部 長 吉田 真  
〒606-8075 京都市左京区修学院坪江町2-5  
☎075-721-1743

副支部長 佐藤 吉憲 山口 隆夫  
幹 事 長 中川 勉  
事務局長 福士 明博

### ◇宮城支部

支 部 長 御供 政敏  
〒984-0828  
宮城県仙台市若林区一本杉町24-2  
☎022-236-0627

副支部長 和田美知子 塚原 保夫 田林 暁一  
森下 和夫  
事務局長 安部 雅人

### ◇山形支部

支 部 長 堤 孝雄  
〒990-2494 山形県山形市末広町9-8  
☎023-624-0466

副支部長 後藤 寛 竹田 篤永  
幹 事 長 生亀 寿子  
幹 事 高橋 宏一 横井 洋子 加藤 章  
浅間 幸助  
監 事 岩沼 甫 大浦 勇

### ◇高島支部

支 部 長 登坂 捷一  
〒992-0351  
山形県東置賜郡高島町高島2152-23  
☎0238-52-0017

副支部長 梅津伊兵衛 星 寛治  
幹 事 長 鈴木 征治  
事務局長 金田 成康

### ◇赤湯支部

支 部 長 佐藤 有弘  
〒999-2231 山形県南陽市二色根373  
☎0238-43-6660

副支部長 石岡 忠一 須藤 清市  
事務局長 三ヶ山岩男

### ◇宮内支部

支 部 長 山水 克美  
〒992-0472 山形県南陽市宮内3172  
☎0238-47-7055

副支部長 長谷川 剛 高岡 亮一  
幹 事 長 樋口 一志

### ◇小国支部

支 部 長 高橋 清人  
〒999-1353  
山形県西置賜郡小国町大字兵庫館2-3-14  
☎0238-62-2714

副支部長 伊藤 通芳 小林新太郎  
事務局長 高野 健人

### ◇長井・西置賜支部

支 部 長 松下鉦三郎  
〒993-0007 山形県長井市本町1-9-27-3  
☎0238-88-2538

副支部長 井上 俊雄 芳賀 康雄  
代表幹事 渡部 秀一  
事務局長 斎藤 道郎

### ◇県庁・教育委員会支部

支 部 長 佐原 伸児  
〒990-0021 山形県山形市小白川町5-22-6

副支部長 澤根 敏弘  
幹 事 長 山川 秀秋

### ◇校内同窓会役員

理 事 星 洋志 竹田 靖  
理 事 加藤 泰弘 猪俣 幸一 船山 洋子





# 平成二十五年度興譲祭全校企画 「奇跡の救出劇」

「工藤俊作中佐のご実家を訪ねて」

総務課 竹田 靖

本校大正九年卒業（第二十八回卒）の先輩に、太平洋戦争中駆逐艦の艦長として、四百名以上の漂流イギリス兵を救助した工藤俊作中佐（注）がおられる。昨年度の興譲祭の全校企画は、工藤中佐のご実家を訪問するものであった。

私も自治会の担当の生徒二名と共に工藤氏のご実家（高島町屋代大笹生、工藤吉雄氏宅）を訪問することになった。

工藤吉雄氏夫妻は、家で温かく我々を迎えてくれ、まずこの家族に流れる朗らかな優しい雰囲気を感じた。家の前の蔵には、工藤俊作中佐の興譲館時代のノートがしっかりと保管されておられた。（このノートは、興譲祭の一般公開で展示した。）また、工藤家

の様々な大変貴重なお写真、戦後八年間兄の農作業の手伝いをしながら奥様と棲んでおられた納屋も見せていただいた。

また、夫妻からは中佐の



人柄について、いろいろなエピソードをお聞きした。学生時代、学力面でも体育面でも抜群に優秀であり海軍の艦長にまでなりながら、晩年に、よく自分は「ウドの大木だ」とおっしゃって

おられたこと。親戚・家族・ご近所には一切偉ぶった様子を見せず、「艦長なんて、会社で言えば、支店長みたいなものだ。全然たいしたことない。」とおっしゃっておられたこと。奥様の言われたことに「はいはい」と穏やかに聞き従っておられたこと。訪問した自治会の代表の生徒と共に氏の間としてのスケールの大きさに深く感動したことを今でもはっきり覚えている。

全校企画では、自治会長の色摩伸平君が、工藤中佐が、漂流していた若き将校・サミュエル・フォール卿らを「あなた方は、我々日本海軍の名誉あるお客である。」と迎え、フォール卿に自伝の扉で「人生の最高の恩人である」と言わしめたのも「一国興譲」の興譲館精神があつたからではないかと締めくくった時、全校生から思わず大きな拍手が講堂全体に湧きあがった。

（一年女子の感想より）

『今回、工藤俊作氏のお話を聞いて、私は、俊作氏

は判断力があり、周りをよく見て皆に指示を出していて、とても勇敢な人だと思いました。四百名以上の人を助けたという話は、あの場でもしかしたら襲われるかもしれないのに、全員を助けるという指令を出したということを知り、人として、本当に尊敬の念でいっぱいでした。』

我々は、縦に繋がる興譲館精神を大切にしつつ、ますます発展させていかなければならないと強く感じたところです。

（注）工藤俊作氏は、本校大正九年（第二十八回）卒。興譲館から海軍士官学校へ。その後、駆逐艦「雷」に乗り、艦長として、漂流中のイギリス兵四百二十二名を救う。救われた英国人の方が、後に自伝を書き、広く知られることとなった。（原本は本校図書館にもあります。）高島町ひろすけ記念館敷地内には、工藤中佐の石碑がある。詳しくは、ウィキペディアやYou Tubeをご覧ください。ただそれだけでは思いません。

## 公益財団法人自願奨学財団 からの御礼とお願い

当財団は、本校の大先輩、我妻榮先生が文化勲章受章を記念して設立されたもので、爾来、その趣旨に御賛同いただいた方々からの御支援も合わせ、経済的に恵まれない本校生徒に対する奨学金給与等の支援事業を継続してまいりました。

御案内の通り、近年の原資不足を補う目的で、平成二十四年度には大規模な募金活動を行い、数多くの皆様より多大な浄財を賜りました。御蔭をもちまして、昨年度より目標としていた給与が可能となりました。ここに改めまして心から御礼を申し上げます。

そして現在もまた、奨学金事業の継続的且つ発展的な運営のため、御寄付の受付を継続させていただいていくところであります。

同窓生の皆様におかれましては、その趣旨に御賛同いただけます場合には、本校事務室まで御連絡をお願い申し上げます。

（代表理事 大貫英二）